

現状・課題

- ・がん患者の緩和ケアに対する満足度は向上しているが6割程度であり、**がん患者とその家族が望んだ場所で適切な治療・療養生活ができるよう支援が必要。**
- ・がん患者の緩和ケアに対する理解度は4割にとどまり、**がん診断時から緩和ケアが提供される体制の確保、がん患者に対する普及啓発が必要。**

対応案

①がん拠点病院全体での緩和ケアに対する理解促進：自院での課題の見直し、改善方法の検討に取り組む

(案1) P E A C E 研修会受講率向上のための計画書(参考資料3)を作成・提出(目標:令和5年度末までに受講率90%)

⇒現在受講率が低いかつ自院での開催歴がない病院を優先に、受講枠を他病院や府が支援

(案2) がん診断直後の緩和ケア提供体制の強化(緩和ケア提供体制についての患者等に対する情報提供内容、診断時の対応について現況報告時に確認)

⇒本ワーキングから提言

②がん拠点病院を中心とした地域における緩和ケア提供体制の強化：地域の医療従事者との連携

(案3) 緩和ケア研修会の受講者の対象を、地域の医療従事者等(医師、薬剤師、訪問看護師等)も対象とすることを、緩和ケア人材養成事業の補助条件に設定(令和4年度4月～)

(イメージ)

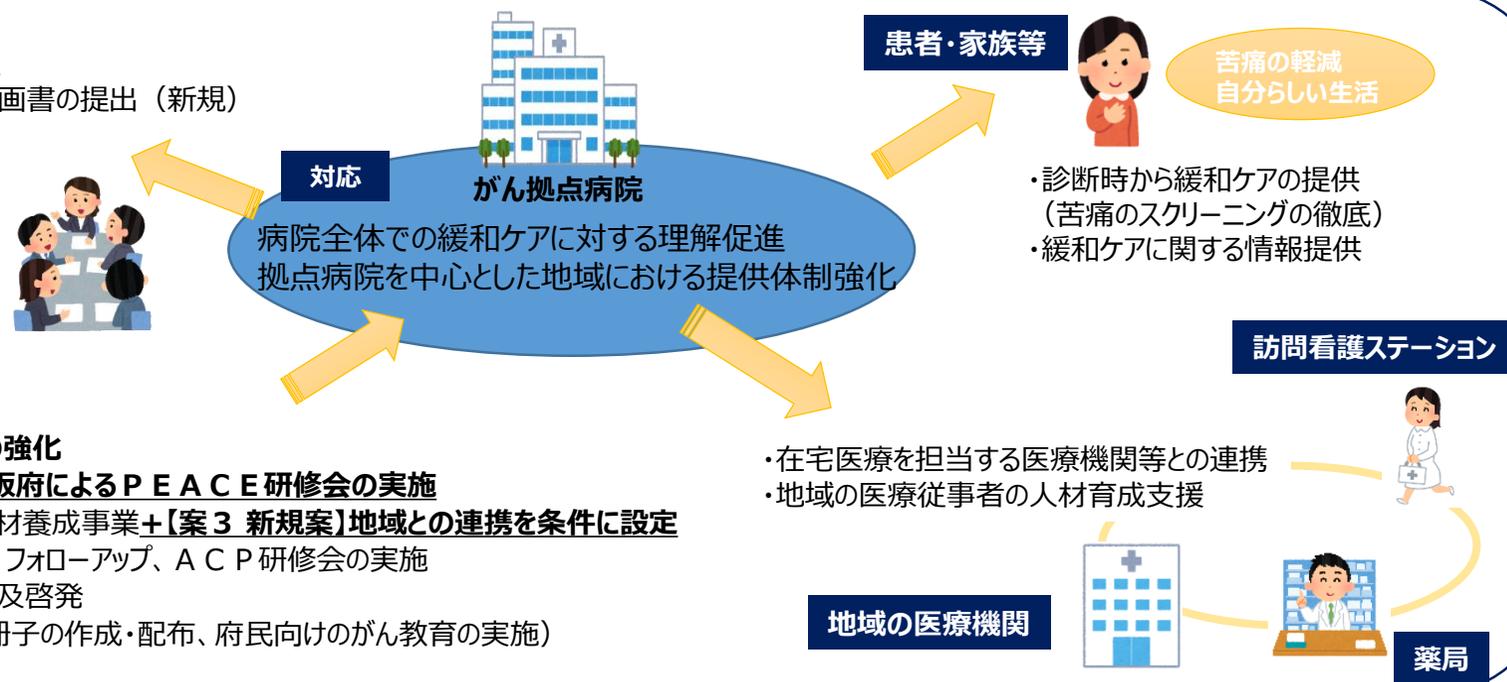
【案1】緩和ケアに対する理解促進

P E A C E 研修会受講率向上計画書の提出(新規)

【案2】

現況報告提出時に、がん診断時の緩和ケア提供体制を報告(新規)

緩和ケア推進ワーキング



緩和ケア提供体制の強化

【案2 新規案】大阪府による P E A C E 研修会の実施

【継続】緩和ケア人材養成事業+【案3 新規案】地域との連携を条件に設定

【継続】P E A C E フォローアップ、A C P 研修会の実施

【継続】府民への普及啓発

(地域の療養情報冊子の作成・配布、府民向けのがん教育の実施)